

「村上市地域福祉活動計画」策定に向けたヒアリング

村上市地域包括支援センター

1. 活動内容

介護予防日常生活支援総合事業（介護予防・生活支援サービス事業 一般介護予防事業）

包括的支援事業（総合相談事業 権利擁護事業 包括的継続的ケアマネジメント支援事業 在宅医療・介護連携推進事業 生活支援体制整備事業 認知症総合支援事業 地域ケア推進会議）

任意事業（家族介護継続支援事業 給食サービス事業 福祉用具・住宅改修支援事業）

2. 活動や業務において、地域の課題と感じていること

活動者・担い手不足

認知症や障がい等の当事者理解が進まない

集まる場がない

情報が伝わらない

その他

- ・一部の人以上しか情報が伝わらない。一部の人以上しか現状がわからないのではないかと？（移動・除雪・買い物）
- ・集落行事の担い手や有償ボランティア活動者が市内他地区より少ない（山北地区）
- ・支援の必要な当事者が声を上げないために、周囲の住民は支援が必要だと感じているが手が差し伸べられないことがある。「恥の文化？」「迷惑かけられない」「弱みを見せられない」など地域性がある。

3. 2の課題を解決するために、必要なこと

住民同士の支え合い

住民の意識向上

制度・施策の見直し

その他

- ・60～70代の人々のマンパワーの活用。支え合いの意識を持つこと。
- ・一人ひとりの意識が重要。そのためにも今、これから何が問題で、何が足りなくて、何を行っていったら良いかという周知活動や考える場を設けることが大切。
- ・干渉し過ぎず、無関心ではない、程よい地域のつながりを作ること。
- ・困った時に助けてと言える地域づくり。
- ・住民の特技やできることリストを各町内ごとに作成、または把握を行い、必要な人に提供される仕組みづくり。

4. 望む地域像について

- ・60～70代が中心となり、支え合い精神でインフォーマルサービス中心で営むことができる社会。
- ・気軽に「助けて」と言える、支え合いがあふれる地域。一人ひとりが住み良い地域について考えていける町。
- ・町内、近所が顔の見える関係で年代関係なく、それぞれの得意なことを、必要な人がいたら気兼ねなく手伝える地域。